

私は今回の主権者教育で二つのことを学びました。

一つ目は若い年齢層の有権者がもっと政治に関心を持たなければならないということです。私は政治には少し興味があったので、今回の選挙権引き下げのニュースを知ったときはうれしい気持ちもありました。その反面、まだまだ知識の少ない自分の意見が政治に反映されていいのか不安な気持ちも当然ありました。また、自分一人が投票したところで何か変わるのかと思っていました。

しかし今回、選挙の仕組みや最近の選挙の投票状況などを学習することで自分の考えは大きく変わりました。これまでの選挙では二十代の投票率が他の年代に比べてとても低いという現状がありました。その影響で若者の意見があまり反映されていません。だから私たち高校生も政治や選挙に関係があることを自覚しなければならないなと思いました。そして、若者の一票はとても重要であり投票に行くことの大切さが分かりました。

二つ目は自分や自分が住んでいる町の将来をもっと真剣に考えなければならないということです。今回の選挙権引き下げによって私たちも大人の世界へと一歩近づきました。それと同時に私たちは自分で自分の将来を考えていかなければなりません。私は主権者教育で学んだことを活かし、初めての投票に行ってみようと思いました。そこで候補者の主張や公約を広報やインターネットで調べました。どの候補者の方も地域の将来のことを考えていることは分かりましたが、私たち高校生には難しく感じる部分もありました。これでは結局誰に投票すればいいのかよく分からないということになり、若者は投票に行きづらいただろうと思いました。

私たちが投票に行くことも大切ですが、そのためには私たちにも分かりやすい選挙活動や説明などをしてほしいと思いました。インターネットを見ていると、質問項目が多数あり、その質問に回答していくとより自分の意見に近い政党を紹介するサイトがありました。こういった取り組みが増えていけば、もっと投票率も上がり、政治に関心を持つ人が増えるのではないかと思います。

しかし、最終的には自分で選択していかなければならず、分からないから向き合わないということでは何も改善されないと思います。まずは自分の意見を持って調べてみるなど積極的に考えなければならないことがわかりました。

今回の主権者教育と初めての投票で多くのことを学びました。自分の将来のためにももっとたくさんの知識を身につけ、意見を持たなければならないと感じました。今回学んだことをこれから社会に出て行く上で、しっかりと活かしていきたいです。